



# JFSTA NEWS

NO. 09 - 002

2009.2.27

目 次	
協会の技術者紹介活動の事例…………… 1	会務報告…………… 3
会報第1号への会員のご意見、ご感想…………… 2	事務連絡…………… 4

## 協会の技術者紹介活動の事例

### - MEL ジャパン検討会への参加 -

専務理事 安永 義暢

協会の事業活動の一つとして、外部機関からの要請に応じて会員の技術者を紹介する活動があります。今回、その第一回目の事例として、大日本水産会（現協会賛助会員）が主催された「MEL ジャパン栽培・定置網漁業検討会」（12月～1月開催）へ出席する技術者を紹介したことをお伝えします。

昨年11月に大日本水産会（以後「大水」と記します。）より協会に対して、同検討会へ出席する技術者を紹介してほしい旨の要請がありました。今回の検討会は、孵化放流・栽培漁業対象種を漁獲する漁業（以後「栽培漁業」と略）及び定置網漁業から「MEL ジャパン」制度認証の申請があった場合、既存の審査基準に不足点は生じないか、生じるとすれば検討すべき事柄として何があるか等について関係者間で意見、情報の交換を行い、新たな基準策定作業への方向付けを図ることが目的となっていまし

た。川口会長のご判断で、栽培漁業調査研究の多少の経験者との点から私が検討会へ出席することとなりました。

検討委員は水産庁、大学、漁業団体などの関係者の方々に構成され、大水が事務局を、私が座長を担当しました。私は、栽培漁業について調査研究の経験はあるにせよ、当該制度に関する知識は頗る乏しかったため急ぎ事前学習に努めました。その際、事務局から頂いた大水国際課の西村雅志氏が執筆された東京水産振興会（現協会賛助会員）叢書「水産振興 491号 マリン・エコラベル・ジャパン - 未来につなげよう、海と魚と魚食文化 -」を読ませて頂きました。協会にも1部頂いていますので、ご希望の方はご連絡下さい。

ここで同誌に依りまして「MEL ジャパン」制度についてごく簡単に説明します。MELはMarine Eco - Labelの略で、漁業者あるいは関係団体からラベル認証の申請が

あれば、第三者審査機関が資源の管理、持続的利用に配慮した漁業であるか等を審査します。審査に合格すれば漁獲物に「MEL ジャパン」の認証を示すラベルが貼られて販売されます。昨今、環境汚染防止に役立つ商品にはエコマークが付されて販売され、良好な環境の維持に一役買っています。同じように、マリンエコラベル付きの水産物が消費者に選択的に購入されることによって、魚類が管理、増殖の努力を要する貴重な食料資源であるとの社会意識が広まり、生産者にとっても資源持続的利用への努力の励みになると考えられます。

検討会は3回開かれ、各委員からご専門の立場にとどまらぬ多くの意見が出されました。討議の結果、栽培漁業、定置網漁業を対象とする「MEL ジャパン」認証基準策

定に向けた基本的な考え方が整理されました。今後、最終案がまとめられて、専門委員会でさらに検討されるということです。

今回、私が協会からの技術者紹介の嚆矢役を十分果たせたかは分かりませんが、この事例のほかにも、水研センターからの依頼を受けて、大手水産会社が作成中のポスターに描かれた470種の魚種の確認をお願いできる技術者を協会が紹介しています。

今後とも各方面より、会員の専門的技術あるいは広範な知識の提供を要望されることが予想されます。その際には、会員の皆様の積極的なご対応、並びに人材確保のための新規会員獲得へのご協力をお願いいたします。

---

## 会報第1号への会員のご意見、ご感想

会報第1号を読まれた会員の多くの方から事務局に謝辞とコメントが寄せられました。特に今後の協会運営、活動の参考となります該当箇所を抜粋して紹介させていただきます。

### 三重県在住W会員

田舎住まいですが、ここは水産県で優秀な諸先輩・同僚が多く、出来るだけ協力させていただきます。

### 宮崎県在住I会員

地方で何が出来るか、どのような対応ができるか考え中です。(中略)会の趣旨、活動方針など説明し、会員の勧誘をしたいと思しますので、入会申込書及びパンフレットを送って下さい。

(事務局より早速お送りしました。)

### 宮城県在住O会員

JFSTA NEWS 読みました。会長、理事長の意欲がよく伝わってきました。また、協会の設立趣旨、活動方針・内容、これからの課題等が明確に記載されており、協会の活動に関する会員の理解が大きく進展するのではないかと感じました。(中略)東京の事務所に定期的に詰めることはできませんが、遠隔地で何かできることがあればお申し付け下さい。

### 東京在住H会員

なかなか前途多難のようですね。(中略)

思いつくまま、こんなことも考えてみたらと、少しでも参考になればというつもりで書いてみました。

1. 先ず、会員 38 名ではどうにもなりません。全国には、潜在会員（これからも活動していただけるような水産技術者）数は 200 や 300 にとどまらないでしょう。現在の会員に手分けをお願いして、そういう方々のリストアップをすること。
2. 現会員及び潜在会員全ての専門分野、「何が出来るか」「どんなことをすべきか」「現在どんなことをしておられるか」「どんなことを考えておられるか」などについての資料を作り上げること。

3. 現在、及び将来を見通して、水産分野で何が必要で、何をすべきか、どんなことが出来るか、どんなことが問題になっているか、研究、調査、コンサルタント、新技術の開発などについて、全国的な視野で情報を整理すること。
4. （これらに基づいて）全水技協で何が出来るか、何をすべきか、独自のメニューを揃えることからやってみては如何でしょうか。
5. そのためには、会員に呼びかけ、知恵を出してもらい、場合によってはボランティア参加を呼びかけては如何でしょうか。

---

## 会 務 報 告

平成21年1月30日

### 全国水産試験場長会で川口会長が 当協会を紹介

於：水産総合研究センター中央水産研究所

平成21年2月20日

### 非営利型法人の届出

麻布税務署及び港都税事務所へ届出

平成21年2月10日

### 当協会お披露目会

（出席者）水産庁増殖推進部長・海洋技術室長、水産総合研究センター理事長他、大日本水産会参与、海外漁業協力財団専務理事、新水産記者、当協会会長・理事長・専務理事・監事・（東京近郊在住）理事他、計 20 名参加

於：全国遠洋沖合いかつり漁業協会会議室

平成21年2月23日

### JICA 横浜 水産関係部門との話し合い

水産総合研究センター、JICA 横浜水産研修担当課、協会の3機関で JICA の研修生受入プログラム作成への協力関係構築について協議。経緯については次号で説明予定。

於：水産総合研究センター本部会議室

会員数(平成21年2月27日現在)

正会員38名 賛助会員12法人

## 事 務 連 絡

### 1 新規会員獲得に向けて

会務報告にもありますように、全国水産試験場長会でも協会の紹介を行うなど、現在、機会あるごとに協会のPRを行っております。また、正会員は増えてませんが、賛助会員は12 法人と増えました。さらに、近日中に各理事へ協会の名刺、パンフレットをお送りして、新規会員獲得にご尽力をお願いする予定です。

### 2 ホームページ会員用ページについて

当協会のホームページに会員用ページを設けてあります。これは、本部や今後整備される予定の各支部等との情報交換の場として活用することを想定し設けたものです。まだ試作中ですが、JFSTA NEWS を掲載してあります。

会員ページのID・パスワードは、別途お知らせします。

### 3 協会の金融機関口座について(2)

当協会の郵便局振替口座を下記のとおり設置しましたので、お知らせします。

郵便局振替口座番号：

0 0 1 9 0 - 5 - 5 4 6 2 0 2

銀行から振込の場合：

店番 0 1 9 当座 0 5 4 6 2 0 2

口座名義：

一般社団法人全国水産技術者協会

(フリガナ)：

シャ)ゼンコクスイサンギジュツシ  
ヤキョウカイ

なお、平成 21 年度の当協会会費振込のご案内をお送りする際に、振込手数料加入者払の振込用紙を同封しますので、ご利用ください。(振込手数料が無料となります。郵便局の ATM を利用しても同様に無料となります。銀行からの振込の場合は手数料がかかります。)

一般社団法人 **全国水産技術者協会**

〒107-0052

東京都港区赤坂一丁目9番13号

三会堂ビルB 1

03-6459-1911 FAX 03-6459-1912

E-mail zensuigikyo@jfsta.or.jp

URL <http://www.jfsta.or.jp>